

秋田県の一般廃棄物の現状について

（令和元年度実績）

秋田県生活環境部環境整備課

令和3年5月

令和２年度一般廃棄物処理事業実態調査（令和元年度実績）結果の概要について

【調査の内容】

1 調査の目的

一般廃棄物行政施策の基礎資料とするため、各市町村・事務組合における、ごみ・し尿の排出处理状況、一般廃棄物処理施設の整備状況等に係る一般廃棄物処理事業の実態について調査を行った。

2 調査期間

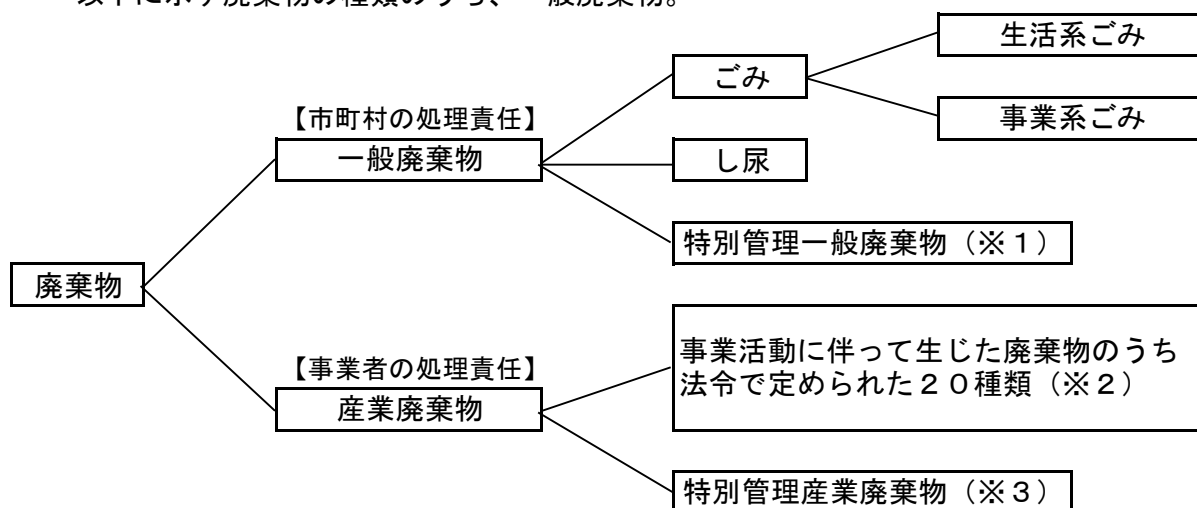
令和２年１０月～令和３年３月

3 調査対象

県内全ての市町村及び一般廃棄物処理事業を実施している事務組合及び民間の一般廃棄物処理施設。

4 対象となる廃棄物

以下に示す廃棄物の種類のうち、一般廃棄物。



（※１） 一般廃棄物のうち爆発性、毒性、感染性等有るもの

（※２） 燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、動物系固形不要物、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、鋳さい、がれき類、動物のふん尿、動物の死体、ばいじん、処分するために処理したもの

（※３） 産業廃棄物のうち爆発性、毒性、感染性等有るもの

廃棄物は、大きく一般廃棄物と産業廃棄物の２つに区分され、事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、法で定められた２０種類のものを産業廃棄物といい、一般廃棄物はこれ以外の、主に家庭から排出される生活系ごみとオフィスや飲食店などから発生する事業系ごみ、更にし尿に分類される。

また、これらの廃棄物の中で、爆発性、毒性、感染性、その他の健康や生活環境に被害を生じるおそれのあるものを「特別管理一般廃棄物」「特別管理産業廃棄物」と分類し、収集から処分まで全ての過程において厳重に管理することとされている。

【秋田県のごみ処理の概要】

1 ごみ排出量

・ ごみ排出量	359 千 t	(前年度	361 千 t)
内訳			
生活系	239 千 t	(前年度	239 千 t)
事業系	116 千 t	(前年度	118 千 t)
集団回収	4 千 t	(前年度	4 千 t)
・ 1 人 1 日当たりの排出量	994 g	(前年度	989 g)
・ 総資源化量	50 千 t	(前年度	53 千 t)
・ リサイクル率	15.2 %	(前年度	15.9 %)

2 ごみ処理状況

・ 直接埋立率	1.2 %	(前年度	1.1 %)
・ 直接焼却率	84.3 %	(前年度	83.9 %)
・ 焼却以外の中間処理率	10.9 %	(前年度	11.2 %)
・ 直接資源化率	3.6 %	(前年度	3.9 %)

3 最終処分場の状況

・ 最終処分量	32 千 t	(前年度	32 千 t)
・ 残余容量	1,153 千 m ³	(前年度	1,186 千 m ³)
・ 残余年数	29.2 年	(前年度	30.3 年)

※最終処分量とは、直接埋立量＋中間処理（焼却、粗大ごみ処理、資源化等）残渣埋立量である。

※残余年数とは、新しい最終処分場が整備されず、当該年度の最終処分量により埋立が行われた場合に、埋立処分を行える期間（年）であり、「当該年度末の残余容量」÷「当該年度の最終処分量÷埋立ごみ比重」により算出したものである。（埋立ごみ比重は0.8163とし、稼働中の施設を対象とした。）

4 ごみ処理事業経費の状況

・ ごみ処理事業経費	146 億円	(前年度	139 億円)
・ 1 人当たりのごみ処理事業経費	14,793 円	(前年度	13,817 円)

※ごみ処理事業経費とは、建設・改良費＋処理及び維持管理費（組合分担金除く）等である。

5 県内の公共設置の一般廃棄物処理施設数（稼働中の施設）

・ 焼却施設	13 施設
・ 粗大ごみ処理施設	9 施設
・ 資源化施設（堆肥化施設含む）	14 施設
・ 最終処分場	35 施設

【秋田県のし尿処理の概要】

1 し尿処理の状況

・ 処理量	385,504 kℓ	(前年度 398,867 kℓ)
内訳		
くみ取りし尿	167,929 kℓ	(前年度 177,805 kℓ)
浄化槽汚泥	217,575 kℓ	(前年度 221,062 kℓ)
自家処理量	0 kℓ	(前年度 0 kℓ)
・ 1日当たりの処理量	1,053 kℓ	(前年度 1,093 kℓ)

2 水洗化率（水洗化人口／処理区域内人口）

	81.0 %	(前年度 80.9 %)
・ 公共下水道水洗化率	56.6 %	(前年度 56.0 %)
・ 浄化槽水洗化率	24.4 %	(前年度 24.9 %)
・ 合併浄化槽水洗化率	18.0 %	(前年度 18.8 %)

3 汚水衛生処理率（公共下水道人口＋合併浄化槽人口／処理区域内人口）

	74.6 %	(前年度 74.8 %)
--	--------	--------------

4 し尿処理事業経費（建設・改良費＋処理及び維持管理費（組合分担金除く））

	41 億円	(前年度 33 億円)
--	-------	-------------

5 県内のし尿処理施設

14 施設	(内稼働 13 施設)
-------	-------------

6 運転管理体制

内訳	直営	10 施設 (内一部委託 2施設)
	委託	4 施設

7 処理方式

内訳	
・ 好気性消化・活性汚泥処理方式	2 施設
・ 標準脱窒素処理方式（旧低二段）	4 施設
・ 高負荷脱窒素処理方式	5 施設
・ 高負荷脱窒素処理方式及び膜分離処理方式	2 施設
・ 下水道投入	1 施設

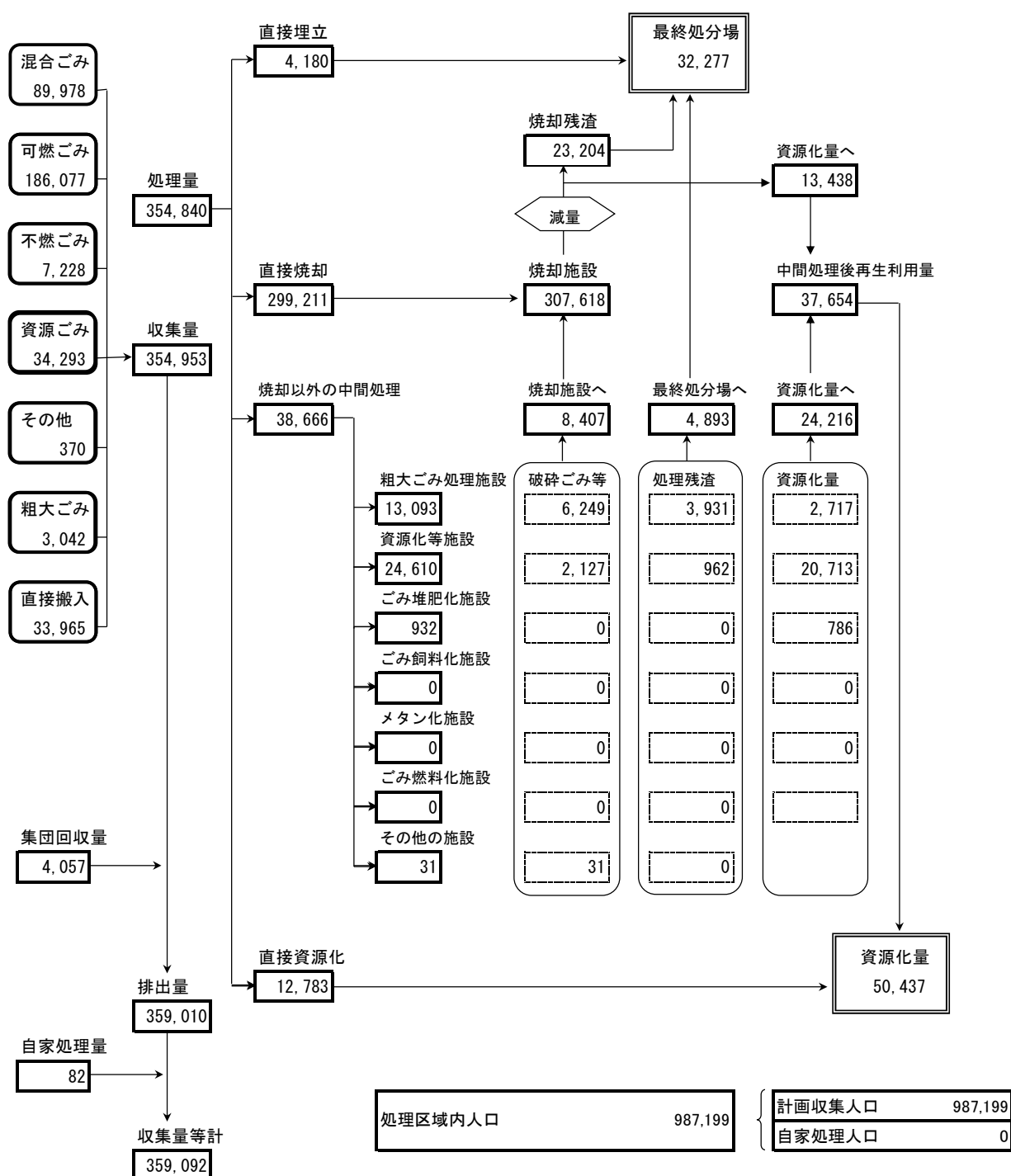
I ごみ処理の流れ

令和元年度のごみ総排出量は 359,010トン、ごみ総処理量は 354,840トンである。

このうち、焼却・破碎・選別等により中間処理された量(中間処理量)は 337,877トン、再生業者等へ直接搬入された直接資源化量12,783トンである。

この両者で、ごみの総処理量全体の 98.8%(減量処理率)を占める。中間処理後に再生利用された量(中間処理後再生利用量)は 37,654トンで、これに直接資源化量を合計した資源化量は 50,437トンである。また、焼却施設により減量化された量は 270,976トンであり、中間処理されずに直接最終処分された量は 4,180トン(ごみの総処理量の1.2%：直接埋立率)である。

《単位 : t/年》



Ⅱ 一般廃棄物の実態について

1 ごみ排出量

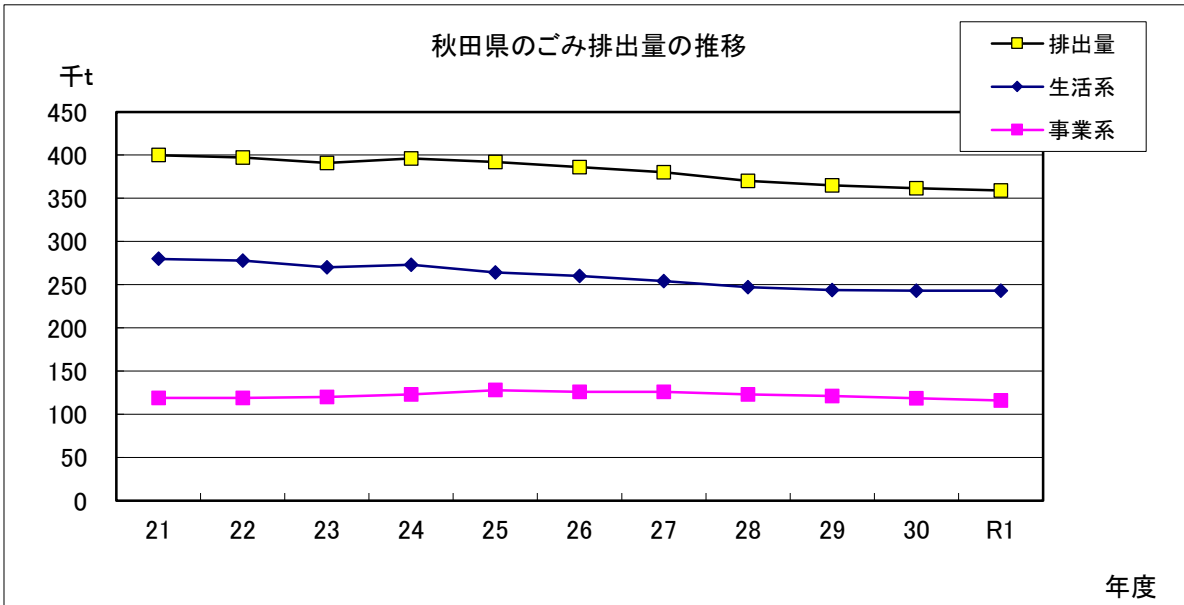
ごみの排出量は35.9万トンとなっており、前年度から0.2万トン減少した。発生源別で見るごみ排出量の割合は、令和元年度で生活系ごみ（集団回収含む）が68%、事業系が32%を占めている。また、種類別で見るごみ排出量では、いずれの品目も減少傾向にある。

ごみ排出量の推移（表1-1）

単位：千t／年

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
生活系	280	278	270	273	264	260	254	247	244	243	243
事業系	119	119	120	123	128	126	126	123	121	118	116
排出量	400	397	391	396	392	386	380	370	365	361	359

（図1-1）

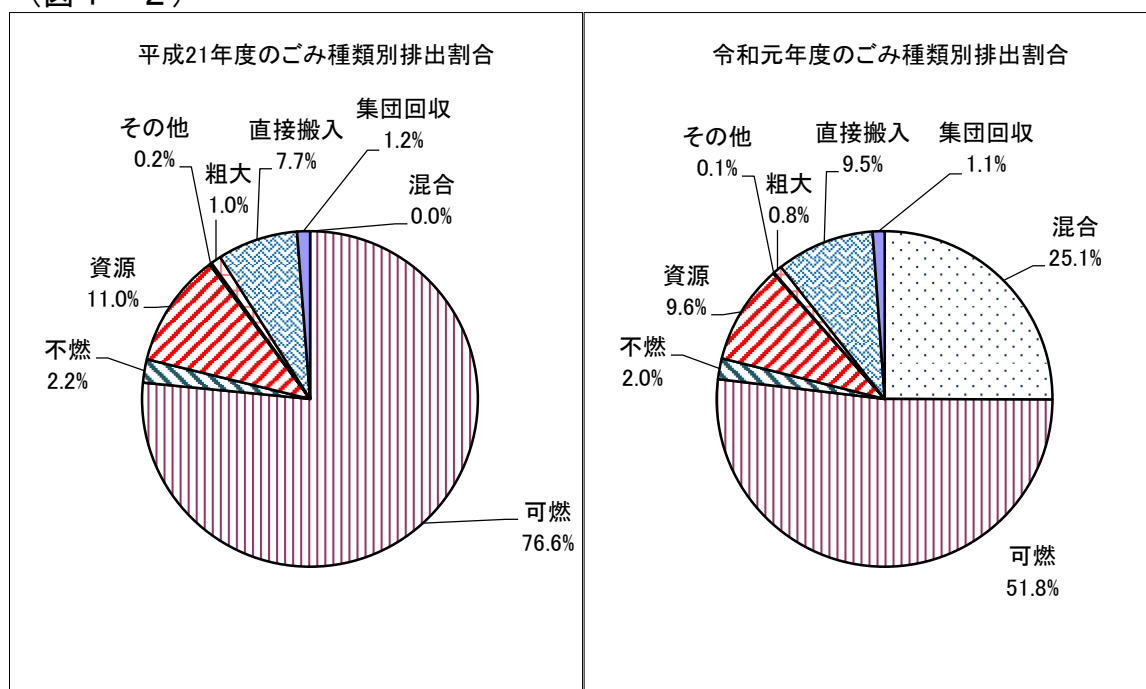


種類別排出量の推移（表１－２）

単位：千 t / 年

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
混合	0	0	0	104	100	100	98	97	95	92	90
可燃	307	306	299	195	197	196	193	191	190	186	186
不燃	9	8	8	9	8	8	8	7	7	7	7
資源	44	43	44	44	44	41	39	38	36	36	34
その他	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
粗大	4	4	3	4	3	3	3	2	3	3	3
直接搬入	31	32	32	35	34	33	35	31	30	34	34
集団回収	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4
合計	400	397	391	396	392	386	380	370	365	361	359

（図１－２）



2 県民1人1日当たりのごみ排出量

県民1人1日当たりのごみ排出量は、前年度から5グラム増加した。なお、令和3年3月に策定した第4次秋田県循環型社会形成推進基本計画では、令和7年度までに1人1日当たりのごみ排出量を935グラムにする目標を掲げている。

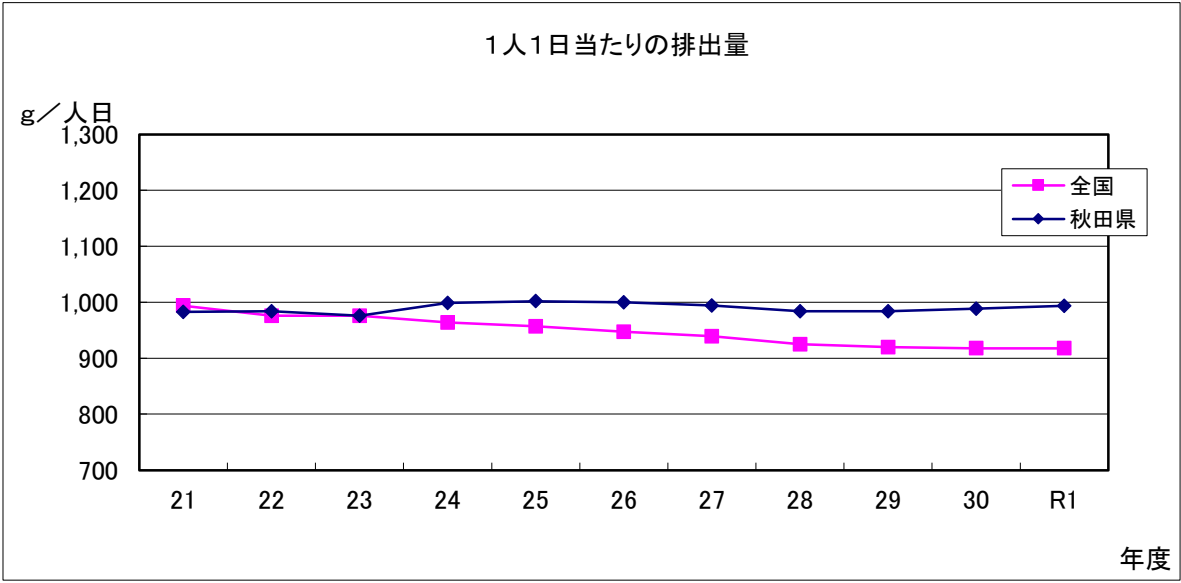
1人1日当たりのごみ排出量の推移（表2）

単位：g／人日

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
秋田県	983	984	976	999	1,002	1,000	994	984	984	989	994
全国	994	976	976	964	957	947	939	925	920	918	918

※ 平成23年度以降は、国庫補助等を活用して処理した災害廃棄物を除いている。

（図2）



3 処理別ごみ処理の状況

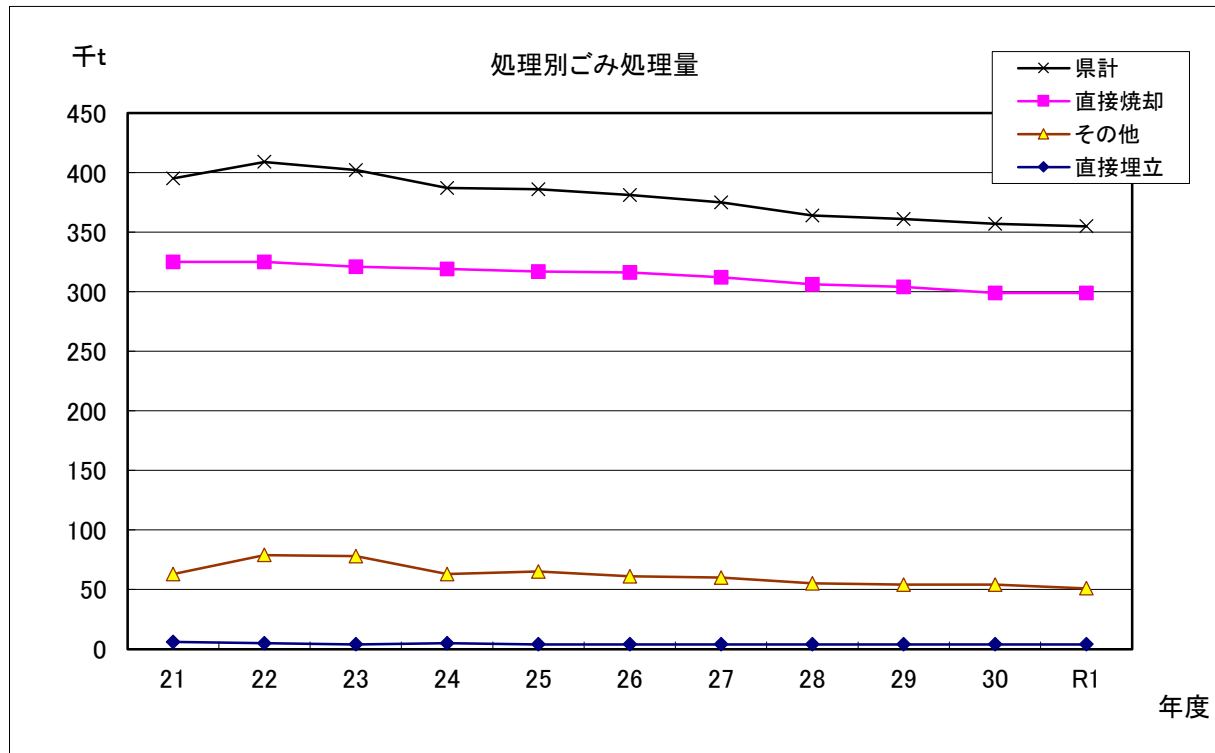
最終処分場に直接埋め立てられる量は横ばい、直接焼却量は減少傾向となっている。

処理別ごみ処理量の推移（表 3）

単位：千 t / 年

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
直接埋立	6	5	4	5	4	4	4	4	4	4	4
直接焼却	325	325	321	319	317	316	312	306	304	299	299
その他	63	79	78	63	65	61	60	55	54	54	51
県計	395	409	402	387	386	381	375	364	361	357	355

（図 3）



4 埋立処理量及び埋立処分場の残余容量等

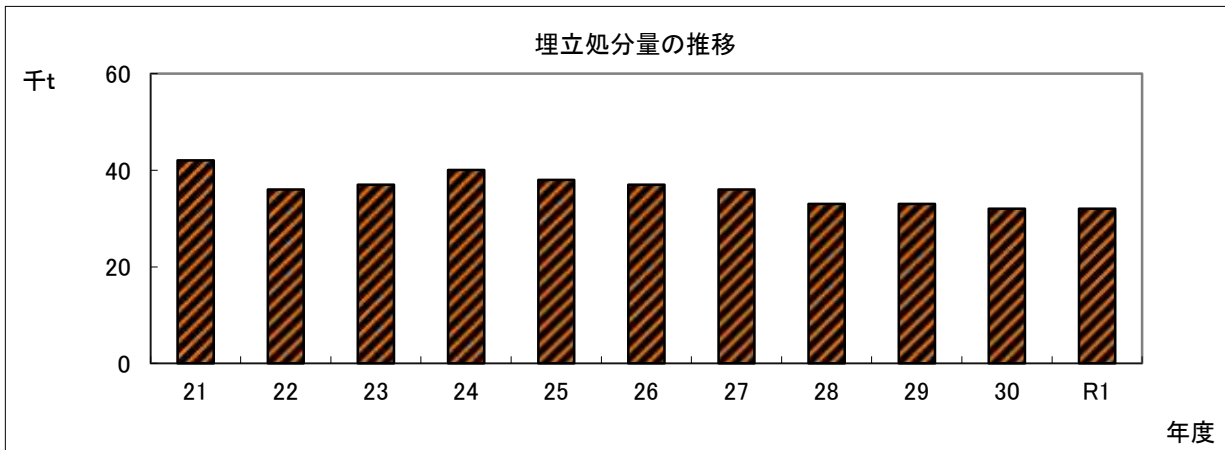
埋立処分されるごみの量は、減少傾向にあり、埋立処分場の残容量年数は令和元年度末現在で29.2年となっている。

埋立処分場の残余容量・年数の推移（表4）

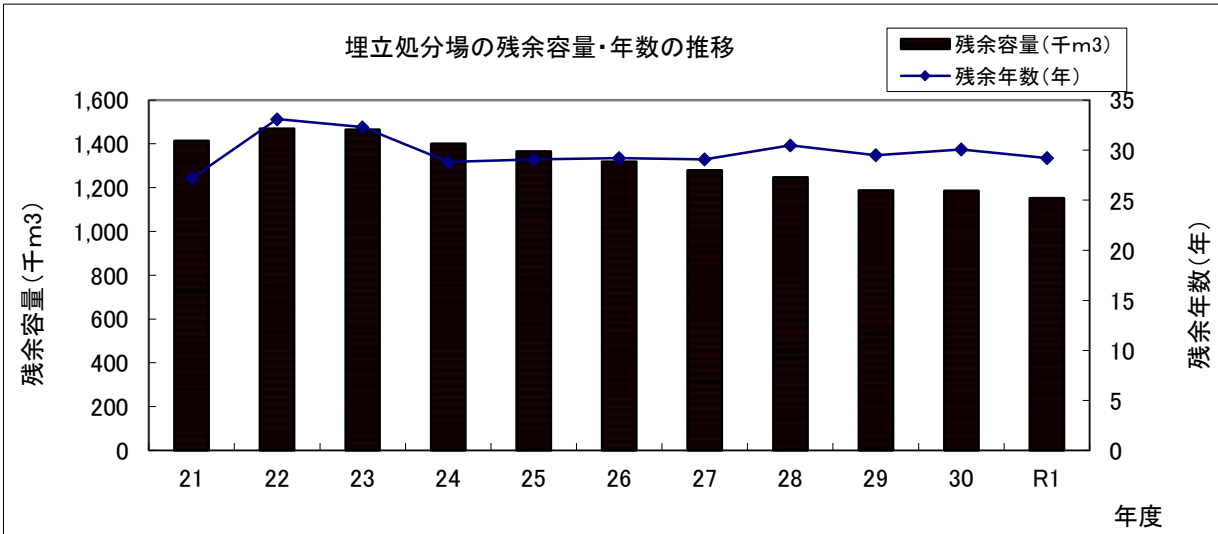
年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
埋立処分量（千t） （直接埋立量＋ 中間処理残渣埋立量）	42	36	37	40	38	37	36	33	33	32	32
残余容量（千m3）	1,414	1,470	1,466	1,401	1,366	1,320	1,280	1,247	1,187	1,186	1,153
残余年数（年）	27.2	33.1	32.3	28.8	29.1	29.2	29.1	30.5	29.5	30.1	29.2

※残余容量及び残余年数は、稼働中の施設を対象に算出。

（図4-1）



（図4-2）



5 リサイクル率の推移

ごみのリサイクル率は、前年度と比べて0.7ポイント下回った。

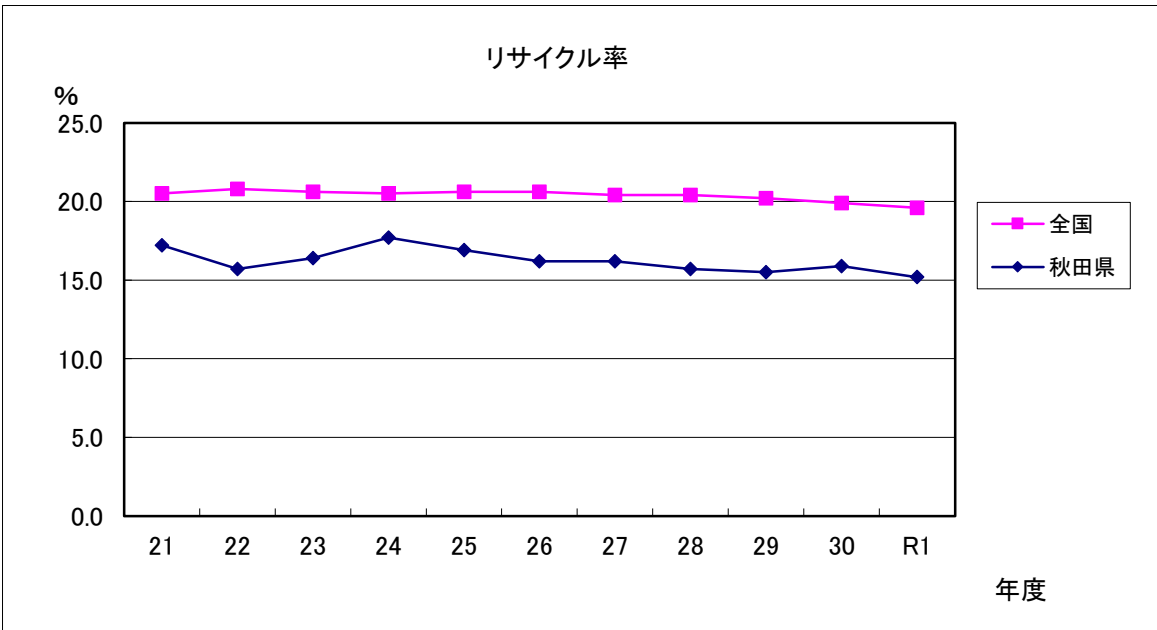
なお、リサイクル率とは市町村が行う処理事業や集団回収などの量により算出されており、スーパーマーケット等の店頭で回収されているもの等は含まれていない。

リサイクル率の推移（表5）

単位：％											
年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
秋田県	17.2	15.7	16.4	17.7	16.9	16.2	16.2	15.7	15.5	15.9	15.2
全国	20.5	20.8	20.6	20.5	20.6	20.6	20.4	20.4	20.2	19.9	19.6

※リサイクル率（％）＝（直接資源化量＋中間処理後の再生利用量＋集団回収量）
÷（ごみの総処理量＋集団回収量）

（図5）



6 し尿処理の状況

し尿収集量は386千k lとなっており、前年度から2千k lの減少となった。

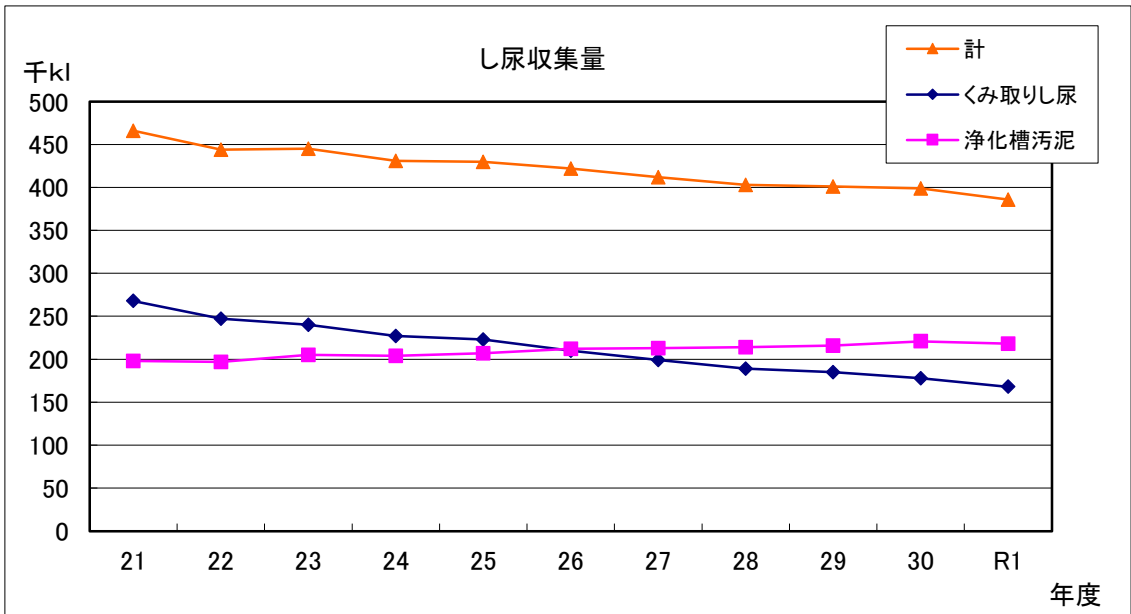
下水道や浄化槽の普及により、くみ取りし尿の量は減少傾向にある。

し尿収集量の推移（表6）

単位：千k l

年 度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
くみ取りし尿	268	247	240	227	223	210	199	189	185	178	168
浄化槽汚泥	198	197	205	204	207	212	213	214	216	221	218
計	466	444	445	431	430	422	412	403	401	399	386

（図6）



7 水洗化の状況

水洗化率については81％となっており、前年度を0.1ポイント上回った。

水洗化率の推移（表7）

単位：％

年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R1
秋田県	69.7	70.4	71.9	73.3	74.9	75.8	77.0	78.4	79.7	80.9	81.0
全国	91.5	92.1	92.6	93.0	93.5	93.9	94.3	94.6	94.8	95.2	95.4

※水洗化率（％）＝水洗化人口÷処理区域内の人口

（図7）

